

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100104
法人名	社会福祉法人ともの家
事業所名	アンジュールともの家
所在地	松山市溝辺町甲9 4
自己評価作成日	平成22年1月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族の方々が非常に協力的に関わってくさるので、ケアパートナーとして心強くまた嬉しく思っている。家族としての大切な思いが伝わりいっそうの励みになり、また教えられることが多い。感謝である。入居者の方々がしあわせであることが、私どもの喜びである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ご家族代表の方が中心となって「家族会」が開催されており、皆の意見をとりまとめてくださっている。近々、ご家族の提案で、ご家族の目から見た「グループホームの職員の姿の写真展」を市内のデパートで開催される予定となっていた。ご家族は、「グループホーム職員の利用者を介護する姿や頑張りを多くの方に知っていただきたい」という思いで開催されることになったようだ。事業所では「ご家族の協力を得ることで利用者への支援の可能性が拡がり、よりご本人の思いに沿った支援ができる」と話しておられた。

ご本人とご家族との絆を大切に支援されている。事業所側から時期等を見て「ご自宅で過ごされてみてはどうでしょうか」と提案し、サポートをされたり、外出やイベント等楽しい時間をご家族と過ごせるように配慮されている。又、「長崎の鐘」等、思い出深い映画の上映会をされたこともある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アンジュールともの家

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

永和淑子

評価完了日

H22年1月28日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者サービスの基本方針の中で「家族・友人・地域との交流を大切にし、社会性の維持・回復に努める」とかかげている。地域にむけたロビー展を年4回実施し地域の小学生の作品や入居者・家族・職員の作品を展示し、交流を深めた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所の理念に基づき、年間の目標を「個別ケアの充実・新しいチームワーク作り・環境美化」と決め、それをもとに月目標を決めて具体的に取り組まれている。2月は「利用者の方をもっと知ろう」という目標を職員で決めて取り組んでおられた。</p>	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <p>自治会に加入しており、行事・イベントに地域の一員として参加し、交流を深めている。職員が防災士の資格をとり、地区防災士として訓練等に参加する予定である。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日々の買物や散歩時には挨拶を交わしたり、事業所2階でバザーやロビー展を開催した際には、小学生の絵や中学の美術部の作品等を展示された。地域の方達も見に来ていただけるよう、ポスターを貼って案内をされた。</p>	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>地域の介護相談を受け付けており、相談があれば、親身になって必要なアドバイスをおこなっている。また、認知症の理解をふかめるためにと家族会が主催する写真展に事業所全体で協力している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 推進会議では行事の見学もとりいれサービスの実際をみてもらっている。会議での報告や話し合いから、サービスの利用につながったケースがあり、地域包括の担当者やご家族から安心をいただいた。職員も出席し会議でだされた課題は共有してサービス向上にいかすようつとめている。</p> <p>(外部評価) 法人の系列事業所とともに会議を開催されている。事業所や法人の活動報告をされ、ご意見をうかがっておられる。会議は夏祭りの前に開催されたり、新人職員の研修会を見ていただいたりされている。近々、隣接に系列のグループホームが移設されることになり、見学会も兼ねて会議を開催する予定になっていた。</p>	<p>事業所では、会議の参加者が決まってきており、今後いろいろな立場の方に参加していただき、事業所のことをさらに知ってもらいたいと考えておられる。さらに地域のネットワークを作っていかれたり、関心を持っていただけるような関わりに努められ、事業所が開催する写真展やロビー展等にも、足を運んでいただける方がさらに増えるように、取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) わからないことがあると市の担当者におききし、教示いただいている。運営推進会議にも出席していただき積極的に情報交換をおこなっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、事業所の活動報告を受けて、市の担当者は、他の参加者とともに意見交換をされている。又、普段にもちょっと立ち寄ってくださることもある。地域の他グループホームで半年ごとに自主的に集まる機会が作られており、各ホームが順番に担当となって議題を決め、現況報告をされたり「記録の取り方」「運営推進会議のすすめ方」等について意見交換をされている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は人権の侵害であると認識しており、拘束をしないケアに取り組んできた。今年度も内部研修にて虐待と拘束について研修をおこなった。玄関は夜間施錠のみで、日中は自由に出入りできる。</p> <p>(外部評価) 法人内・外の研修時に勉強されたり、日々の中でも先輩職員が些細な拘束についても「身体拘束に当たる」ことを伝えておられる。事業所では、利用者の動きに合わせて職員がサポートすることに努めておられる。頻繁に出かけられる方にGPSで安否確認して対応しておられたが、GPSに頼ることに職員から疑問の声も出て来て「職員の見守り」の大切さを職員で話し合うようになったようである。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待について理事長より研修があり、市町村への通報義務も学び職員としての責任と自覚をふかめることができた。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会などで制度についての知識を深めている。必要性があるようなかたには関係者と話し合っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用相談があった時は施設見学、体験入所（部屋があれば）などおすすめして契約にいたるまでに慎重に対応している。また契約の締結、解約についても納得いただけるよう十分な説明をこころがけている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の来訪も多く、その機会にお話を伺うようにしている。いただいた意見や苦情、不満はただちに連絡ノートに記載したり職員会議で共有し、その後にかすようとりくんでいる。 (外部評価) ご家族代表の方が中心となって「家族会」が開催されており、皆の意見をとりまとめてくださっている。近々、ご家族の提案で、ご家族の目から見た「グループホームの職員の姿の写真展」を市内のデパートで開催される予定となっていた。ご家族は、「グループホーム職員の利用者を介護する姿や頑張りを多くの方に知っていただきたい」という思いで開催されることになったようだ。事業所では「ご家族の協力を得ることで利用者への支援の可能性が拡がり、よりご本人の思いに沿った支援ができる」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議、職員研修会等で意見をきき運営している。年度末には職員提言メモを提出してもらい、反映させている。	
			(外部評価) 職員は法人の研修以外にも、実際の介護現場を写し出したビデオでの学習等をされており「介護することに感動する」ことも大事にされている。日々の中で利用者の状態変化があるときには、職員でアイデアや意見を出し合い、介護を工夫して利用者がその人らしく暮らし続けられるような支援に努めておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は職員が自らの仕事に誇りをもちやりがいを感ぜられるようにと率先して研修会やビデオ学習会を開催している。またスーパーバイザーの横山紘子氏に泊まりこみにて現場指導を依頼するなど、職場環境の整備につとめている。職員各自の努力や勤務状況実績などは管理者と自らの目で把握し、給与や賞与に公平に反映している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間を通して職員研修会を開催し外部研修への参加も奨励している。新人・中堅・リーダー別の研修の機会を設け、2年目職員の研究発表を行うなどしてキャリアパスをすすめている。資格取得のための勉強会も自ら担当し、職員には委員会活動をつうじて自発性を培う訓練をしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣グループホームの交流会をもちまわりで開催して交流している。また地区の地域包括センター主催のサービス事業所連絡会にもできるかぎり出席し、情報を交換しあっている。勉強会の案内や相互訪問も約束している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時にはケース検討会を開き本人・ご家族にも参加していただき、困っていること求めていることをきかせてもらって利用がスムーズにいくよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前になんとか話し合い、もともとめていることを出来るだけ聞きだせるように努力している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まず必要としている支援を見極め対応している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者は人生の先輩だという認識を職員全員がもち、折にふれ意見を伺い、食事作りなどは監督兼味見をお願いしている。時には働く態度や心構えについてアドバイスしていただくこともある	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族をケアパートナーとして位置づけている。ご家族の思いを大切にし、一緒に過ごす時間を持っていただいている。毎月のお掃除デーには家族も参加していただき、ロビー・バザー展も家族の会との協賛でおこなっている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族とともに故郷訪問したり、なじみの人にホーム訪問をしていただいている。馴染みの場所を訪れる機会もご家族の協力を得て作っている。 (外部評価) ご本人とご家族との絆を大切に支援されている。事業所側から時期等を見て「ご自宅で過ごされてみてはどうでしょうか」と提案し、サポートをされたり、外出やイベント等楽しい時間をご家族と過ごせるように配慮されている。又、「長崎の鐘」等、思い出深い映画の上映会をされたこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 誕生会にはお祝いの言葉を書いた色紙を贈呈、祝辞のスピーチ、歌などともに暮らす喜びを感じている。また日常のなかでも一緒にできる作業やゲームを楽しんでいる。イロウで居室にほとんど過ごされている方にもリビングで昼食をとっていただいて利用者同士の関わりを大切にしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院により退去されたご家族やなくなられた方のご家族がバザー・ロビー展にきてくださったり、見学者を案内してこられることがある。ともの家だよりや行事案内を送付しいつでも気楽にきていただける関係を継続している。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時と入居後は随時本人またはご家族と話をし把握につとめている。センター方式のアセスメントシートを利用し、集めた情報はスタッフ間で共有できるようにファイルしケアプラン立案時などに活かせるようにしている。 (外部評価) 入居時、センター方式のアセスメント表に情報を記入されている。新人職員は、目を通しておられる。日々のケアの中で音楽や歌、映画や写真、かるた等の遊びや外出時等、それぞれの場面を通して利用者のことを知ることに努めておられる。知り得た情報は、介護記録等に書き留めるようにされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族の来訪も多く、その機会にお話を伺うようにしている。いただいた意見や苦情、不満はただちに連絡ノートに記載したり職員会議で共有し、その後活かすよう取り組んでいる。本人やご家族にお聞きし、アセスメントシートを作成し、スタッフ間で共有できるように個人別にファイルしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の暮らしの現状を観察し、記録に残す。また申し送りを綿密に行い職員間で連絡をとりあっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			ご家族をケアパートナーと位置づけ、ケアカンファレンスにも参加していただき、意見をいただいている。介護計画を「幸せ計画」ととらえ、生活歴をふまえた利用者主体の介護計画を立てている。	
			(外部評価)	
			「ご本人は、何がしたいか」という視点で介護計画を作成しておられ、担当職員が中心となって、事業所からは、ご本人の生活の工夫やアイデアを提案して、ご家族にも協力いただきながら支えていけるよう、計画を作成しておられる。毎月、職員で利用者個々の支援内容について話し合ったり、3か月ごとに介護計画を見直しされ、身体面や精神的な面についても状態に変化があった場合は見直すようにされている。	職員は、利用者の入居以前のこと等、よく知っておられるが、入居後の情報を蓄積していくような書式等も工夫されてみてはどうだろうか。利用者の思いや意向をより探り、職員で共有し「幸せ計画」に反映していかれてほしい。事業所は、最期まで利用者を支える場所でもあり、最期まで利用者個々の思いや好き嫌い等の好みをケアに活かして支援していかれてほしい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の記録を書くときにケアプランが常に確認できるように工夫をおこない記入し、介護計画の見直しに活かしている	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人ご家族の状況や要望に応じて外出・受診・外泊・ご家族の泊まりなど柔軟に対応している。馴染みの美容院にいかれたり訪問理美容を利用したり、訪問マッサージをうけられたり併設の小規模多機能サービスのクラブ活動に参加したりとさまざまな希望を満たしている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			必要に応じて警察、消防署、小学校、中学校、ボランティア、民生委員の協力をいただいている。職員の知らない間に外出された入居者のかたがきていますよと連絡をくださる喫茶店、お好み焼き屋さん、クリーニング店があり、その縁で地域の支援を感じている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) それぞれ本人や家族の希望にそったかかりつけ医をえ らんでいただき訪問診療や往診など、適切な医療が受 けられるよう支援している。医師からのアドバイス等 は医療情報として記録している。	
			(外部評価) ご家族が受診に付き添われたり、職員が同行されてい る。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームには通常週4日看護職員が勤務し健康管理にあ たっている。受診、往診の対応、介護職員からの報告 相談等に即応している。緊急時には24時間相談でき る体制をとっている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 認知症という病気をかかえての入院となるため、病院 関係者、ご家族と情報交換し安心して過ごせるためと 退院について十分な相談を行い、連携している。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 管理者、看護職員が中心となり、話し合いをもち、状 況に応じて医師と連携し、支援している。看取りにつ いては昨年度シンポジウムを持ち学びをえて方針を共 有している。	
			(外部評価) ご家族も看とりについてのシンポジウムに参加してい ただく等、終末期のあり方・考え方を共有しなが ら、ご家族と協同してご本人を支えていけるように取 り組まれている。ご家族にご本人の現在の状態をしっ かりと知っていただき、今後のことについてご意向を うかがいながら、事業所でできることを話し合われて いる。看護師資格を有する職員が利用者の健康管理を され、又、職員の不安なことについてバックアップを されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師による急変時や応急手当の研修をもった。今後も消防士による応急手当の講習を計画している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 昨年職員が地域防災士の講習を受け、資格をえたので災害について研修会で発表してもらった。今後も地域の防災訓練に参加し協力体制を築いていきたい。 (外部評価) 職員の喫煙場所は、外の所定の位置に決めておられる。又、日頃より火の用心に心がけておられる。事業所で避難訓練をされた際には地域の方に向けて案内され、1名の方の参加を得て行われた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ともの家の接遇態度、援助のチェックポイントで明示し職員はそれに基づき一人ひとりの思いや言動を大切にしたいサービスの提供を行っている。 (外部評価) 利用者個々の人格を尊重した対応に努めておられる。法人内の接遇等の研修や、日々の中でも先輩職員の対応を見て新しい職員が学ばれたり、又、「ともの家の方針」を職員で共有して、利用者への言葉かけ等にも気を付けておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定の場面を作り出し、本人の意向、希望を大切にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 生活面すべてにおいて一人ひとりのペースを尊重し、暮らしの主体者として入居者が自由に自分らしく生活できるよう援助している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個性を大切にしながら洋服をえらんでいただいたり、整容に気をつけている。外出時は普段よりおしゃれに心がけている。理容・美容は基本的には本人のいきつけの店に行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に食事をし、おしゃべりや音楽をききながら食事時間を楽しんでいる。出来る方には準備や後片付けをてつだっていただいている。 (外部評価) 昼食は食事作り担当の職員が買物をして手作りされている。夕食と朝食は職員が作るようになっている。職員も一緒に同じものを食べながら食事がすすむように声をかけたり、お汁が冷えたら温め直し、お茶のお代わりをすすめておられた。姿勢が前かがみになりがちの利用者には、小皿に料理を少量ずつ移して、ご自分がスプーンですくいやすいようにされたり、職員がスプーンにご飯を乗せてサポートされていた。又、テーブルの下の足置きに足を置いて安定した姿勢で食事ができるようにされていた。食後のデザートは利用者の状態によってゼラチンで果汁を固めていたり、便秘ぎみの方にはヨーグルトにされていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人にあった食事量の把握をし、量が確保できない方に関しては捕食をしていただいている。カリウムに制限のある方に対しては、代替食を用意している。水分チェック表で毎日の水分摂取量を把握している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨き、うがいをしている。利用者の状態にあわせて義歯の手入れを一人ひとりにあった道具でしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握しており、入居者にあわせたトイレ誘導を行い排泄の失敗を減らすよう努めている。昼間はできるだけ布パンツにして自立に向かった支援をするとともに個々人にあわせた排泄用具を検討し使用している。	
			(外部評価) 食事の前後にトイレに誘ったり、全介助の方も清潔を保てるように気を付けておられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 牛乳・ヨーグルト・ハブ茶・アロエなどその人にあわせたものを試みている。水分の取りにくい方にはゼリーとして水分補給が出来るよう工夫したり、散歩や運動など午前中の活動も心がけ、自然排便に努めている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者の希望や体調、ペースにあわせてくつろいだ入浴をこころがけている。昨年の入浴委員会の発表を参考にして気持ちのいい声かけやタオルの工夫をおこなっている。	
			(外部評価) 毎日3名くらいずつ入浴できるよう支援されている。介護度が重度の利用者も湯船で温まれるように支援されており、浴槽の中では軽く皮膚をマッサージされたり「～してもいいですか」とお聞きしてから介助されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中運動や活動の場をつくり、また日光浴や外気浴を心がけ夜安眠できるよう支援している。入居者がおちつけるようにソファやこたつで心身を休めていただいている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人の薬袋に処方されている薬名を書き、薬の目的や、用法、用量が記入されている。薬の副作用については看護師を中心に打合せ等で確認し、症状の変化の確認に努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとり出来ること、出来ないことを把握し、もてる力を発揮していただく支援をしている。食器拭き、ふきん縫い、まき運び、ごみ捨ての手伝い、洗濯物干し、たたみ、草とりなど残存能力にあわせ取り組んでいただいている。生花や習字、買い物にも参加されている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望にそい、いつでも外出できるよう支援している。希望を表明されない方にはお誘いしている。玄関先のテラスでの食事やお茶、近くの公園への散歩など日常的に行き、近隣のともん家にはお互いに訪問しあっている。カフェにも動向し気分転換をはかっていた。	
			(外部評価) 法人内の系列3グループホームが合同で個々の利用者の状態に合わせて外出先を決め、ご家族等の協力も得て「遠足」をされた。電車に乗って松山城の「二の丸公園」に出かける方や外食されたり、車に乗って2時間程度で戻って来られるようなご本人に無理のないような外出を計画して、外出を楽しまれた。利用者の重度化等のこともあり、「外に出る」ような機会も減っているようであり、今後、「積極的に外に出る」ことをすすめていきたいとも話しておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理不可能な方が多いが、可能なかたにはご家族と話し合いお金を持っていただいている。近所のなじみの店で欲しい食品を購入され、代金はご本人の財布から店員さんに取ってもらうかたちで買い物を楽しまれているようである。またたまには、喫茶店でコーヒーをのまれていることもある。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 頻繁な電話にご家族が携帯電話を用意してくださり、かけたときにはお手伝いさせていただきご家族との会話をたのしまれている。手紙がきたときには返事を出すよう支援している。遠隔地のご家族が、しっかりした内容のはがきにおどろかれたとのことであった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	テーブルには花をいけ、食事時にはランチョンマットを敷き、時間に合わせた音楽をながしている。また過度な照明をひかえ、快適な空間となるようこころがけている。	
			(外部評価)	利用者の年代に懐かしいような手入れされた和家具や日本人形・民芸品が水屋に飾られていたり、又、各所にも飾られている。「まきストーブ」は、炎が見えて、近寄れば暖かく、全体的にもまきストーブならではの暖かさを感じることが出来る。又、音楽を流されたり、ピアノを弾いて下さる方が来られて、童謡等を聞かせて下さったり、利用者も一緒に歌われ、涙を流される場面もあるようだ。玄関や居間、居室前の廊下等はゆとりのあるスペースがあり、利用者の方がモップを掛けて下さったり、中学生交流の際には、拭き掃除をしてくれた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	リビングの各所にコーナーを設け、居心地のよい場所作りをしている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	家族と相談し本人が落ち着け居心地良くすごせるよう、ラジオ、画集、仏壇、椅子、机、鏡台などそろえていただいた。また、部屋に家族の写真や思い出の写真をかざられている。	
			(外部評価)	小規模多機能ホームで行われる、お花やお習字の教室で作った作品を飾っておられたり、ご本人が安楽に眠ることが出来るようなクッション等のグッズを、職員が提案したりご家族と相談して置いておられたり、又、思い出の写真や飾り、鏡台等、ご本人のことを思っておられるご家族の気持ちが感じられるようなものが多く持ち込まれており、利用者個々の個性等も感じられた。お部屋で長時間過ごされる方には音楽を流されたり、横になっている状態でも見やすい位置にお好きな絵を飾っておられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	トイレ、浴室、廊下など必要なところには手摺をとりつけている。浴室、トイレは見分けられるようなれんやプレートがかかっており、各人の居室には表札をはってある。	